

詩の幻、リアリティの光り

講演：詩人 佐々木幹郎氏 2020.11.15<sub>sun</sub> 13:15→

県民芸術文化祭2020参加 第69回富山県芸術祭主催行事 富山県詩人協会設立15周年記念講演会

県民芸術文化祭2020 参加 第69回富山県芸術祭主催行事 富山県詩人協会設立15周年記念講演会

演題 = 詩の幻、リアリティの光り

講師 = 佐々木幹郎氏

日時 = 2020年11月15日[日]

13時15分から

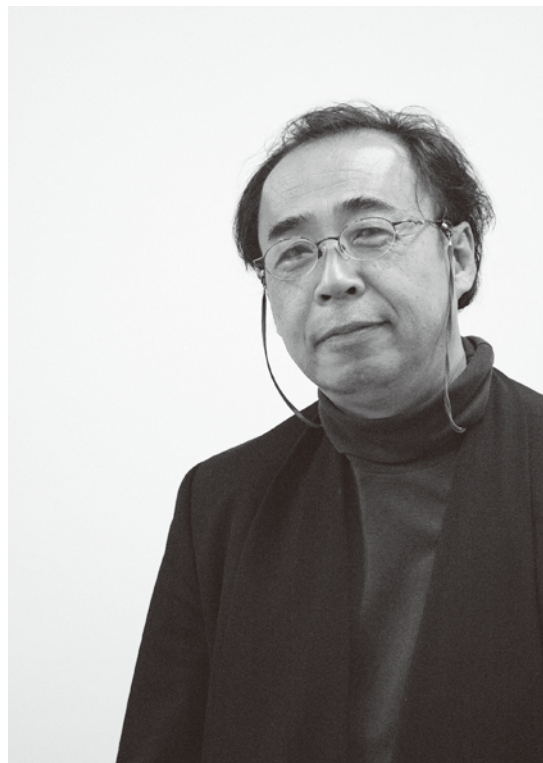
会場 = ホテルグランテラス富山  
3F[清風の間]  
富山市桜橋通り2-28  
Tel.076-431-2201

後援 = 北日本新聞社

主催 = 富山県詩人協会

お問い合わせ = 090-6274-3324 [本田]

入場無料



講師プロフィール 佐々木幹郎 (ささき・みきろう) : 詩人。1947年奈良に生まれ大阪で育つ。同志社大学文学部哲学科中退。米国ミシガン州立オークランド大学客員研究員、東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文芸非常勤講師を歴任。1970年、詩集『死者の鞭』(構造社、後に復刻版を国文社)でデビュー。他の詩集に『水中火災』(国文社)、『音みな光り』(思潮社)、『蜂蜜採り』(書肆山田、第22回高見順賞)、『明日』(思潮社、第20回萩原朔太郎賞)、『鏡の上を走りながら』(思潮社、第1回大岡信賞)など。評論・エッセイ集に『中原中也』(筑摩書房、第10回サントリー学芸賞)、『アジア海道紀行』(みすず書房、第54回読売文学賞)、『やわらかく、壊れる』、『雨過ぎて雲破れるところ』、『瓦礫の下から唄が聴こえる』(みすず書房)、『旅に溺れる』(岩波書店)、『東北を聴く—民謡の原点を訪ねて』、『中原中也—沈黙の音楽』(岩波新書)など。『新編中原中也全集』全6巻(角川書店)責任編集委員。共著に『大正—歴史の踊り場とは何か—現代の起点を探る』(講談社選書メチエ)。英訳詩集に『Sky Navigation Homeward』(Dedalus Press、2019、Ireland)。最新刊にエッセイ集『猫には負ける』(亜紀書房)。「現代詩手帖」2019年10月号に「特集・佐々木幹郎—詩の磁場へ」(思潮社)がある。国内外で詩の朗読活動が続け、東京藝術大学卒業生を中心とする詩と音楽のコラボレーション集団「VOICE SPACE」顧問。小室等とのフォークソング歌詞、西村朗、寺嶋陸也との合唱曲作詞など多数。オペラ台本に『紫苑物語』(石川淳原作、西村朗作曲、大野和士指揮、2019年2月新国立劇場初演)など。